

郷音 ～KOURU～ 流

蒙光 むこう

茨城県東部、太平洋に面した磯崎・阿字ヶ

浦・那珂湊の三浜地区。夜になると阿字ヶ浦

にある灯台が、闇を破り船舶の往来をそっと

見守っている。闇が闇を破る事はできない。光

があればこそ闇は破られるのだろうか。そして

て、その光を頼りに多くの船が歩んできたの

だと想像が膨らむ。

思えば、新型コロナウイルスが流行し、様々

なメディアを通して多くの情報が報じられ

た。しかし、私たちには何が確かな事なのか

解り得ない。情報があるが故にかえって闇が

深くなる。そんな時ふと思わされる。私の人

生の頼りとなるものとはなんだろうか。光を

聞き光に向き光に育まれる。灯台と船舶の往

来に思いを馳せつつ自身のこころに問いかけ

てみたい。



ひと

法水歯科医院 医院長 × 行方市 豊安寺 住職

法水 隆文さん

心の治療と歯の治療

境内に歯科医院!?

歯科医院の医院長 兼 住職を務める豊安寺 法水ご住職にお話を伺いました。

—— こんにちは。境内の中に歯科医院があるのは珍しいですよ。看板がないので、どこが歯医者さんかわかりませんでした(笑)

迷われる患者さんもおられますよ。「あの、目の前に本堂があるのですが、ここで本当に合ってますか?」って電話が来たこともありました。

—— 看板出さないのですか?

一人ですべてしているので体力の限界があるんです。若いころは患者さんが増えすぎてしまい21時過ぎまで治療をしたこともありました。さすがにきつかったですし、治療もしっかりしたいので、看板は出さず口コミで来てくださる患者さんをきちんと診るようになっています。

—— 21時過ぎまで、お忙しいですね。住職も務められていると、お葬儀の連絡が突然あると思います。どう対応されているのですか?

歯医者者を完全予約制にしました。なので、お葬儀のご縁の時には、その時間の方に連絡して時間を変更させてもらっています。ご理解してくださる方ばかりで助かります。

—— そうなんですとか、どうして住職をしながら歯科医になろうと思ったのですか？

先代も住職と歯医者を兼業していたので、小さい時からどちらも継ぐつもりで励んできました。思ったより大変でした。

—— 小さいころから決意されていたのですね。僧侶にはいつなられたのですか？

28歳の時です。歯科大学を卒業してすぐに、京都に僧侶の勉強をしに行く予定だったのですが、歯科大を卒業しただけではダメだと思い、数年間東京の歯科医院に勤め学びを深めてから京都に行きました。歯医者としての時間のほうが長いので最初は仏事を勤めさせて頂くのがすごくプレッシャーでしたね。

—— そんな経緯だったのですか。患者さんは御門徒（お檀家）さんが多いのですか？

今は半数くらいでしょうか。

—— 歯医者さん兼住職という立場で、良かったことはありませんか？

どちらも気分転換になりますね。ユニフォームが変わると気分も切り替えられます。

ずっと同じことをしていると苦しくなりますからね。後は、歯医者の話を法話（法事等の際に僧侶がする話）の取っ掛かりにしたりしています。

あとは、患者さんの半数は御門徒さんなのでより深いお付き合いができることですね。「門徒割引きしないの？」と聞かれたこともあります（笑）

中にはご家族皆さん患者さんで、一家全員の口の中の状態を知っているご家庭もあるんです。そういうお付き合いなので、「今後はこう治療していきましょう」と約束をしたばかりの方がお亡くなりになられることもあります。「無常」とは聞かされていても寂しいものです。

—— そうですね。聞くところによると、医院を閉められる予定とのことですが。

自分の体調のこともあるので、あと3年程度を目途に閉院しようと思っています。それまでの間、どちらもしっかり勤めたいと思います。



歯医者さんとお釈迦様は似ている。

歯医者さんは口の痛みを和らげる仕事をされる。

一人一人異なる症状、痛みの原因は何か、考えて最良の治療を施される。

お釈迦さまは心の痛みを和らげる教えを説かれた。

一人一人異なる人生、痛みの原因は何か、見抜かれて八万四千もの治療法（お経典）を残された。

中でも最も治療を施すのが難しい愚かな者が自分だと言われたのが親鸞聖人。

患者を治療する教えとは何か。浄土真宗の法座で一緒に聞いていきたい。

聞き手：水戸市 安楽寺 澤田唯



Profile

ほうすい たかぶみ
法水 隆文

趣味・特技：ドライブ

好きなもの：車

座右の銘：自分なり

～茨城の念仏道場を尋ねて～

あおつかきんじょうとうじ 青塚山 成等寺



国立ひたち海浜公園に程近い、ひたちなか市馬渡に成等寺はある。幹線道路から少し外れた、昔ながらの住宅地を抜けると、成等寺の白壁の参道と本堂の屋根が目飛び込んでくる。

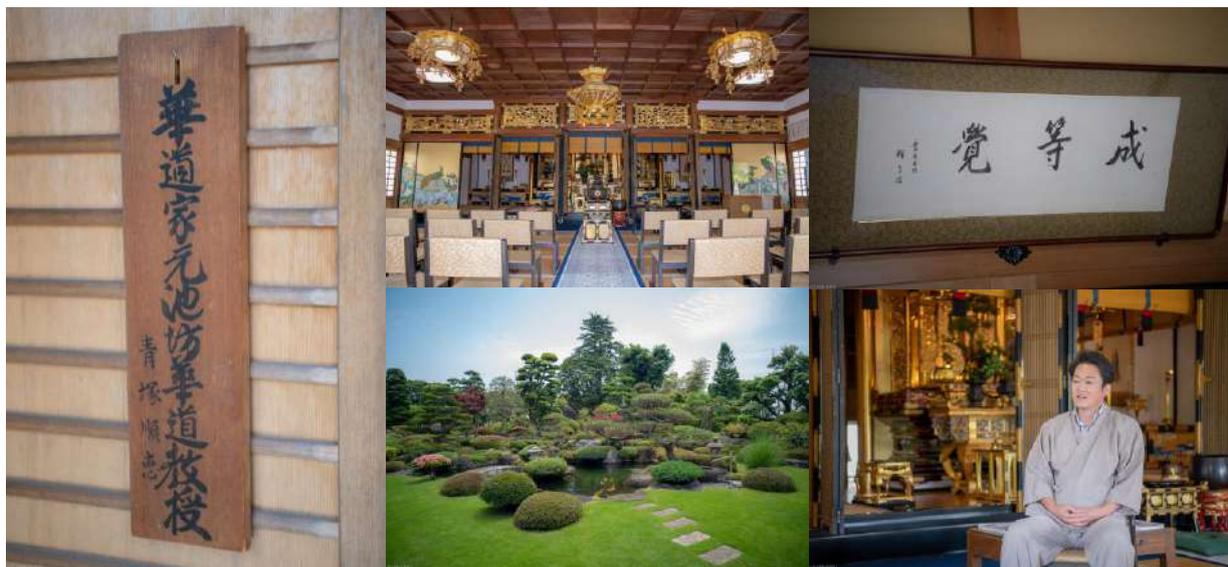
境内を歩くと手入れの行き届いた日本庭園が見え趣深い。同寺に訪れた6月上旬はちょうどツツジの花が終わり、アジサイが咲き始め、季節の変わり目を感じられた。

ご門徒と共に歩んだ700年

成等寺は建保5年(1217年)、藤原孝秀入道唯順により創建された寺である。創建当時の成等寺は浄土真宗の寺院ではなかったようだが、親鸞聖人が常陸国(今の茨城県)で布教活動をされていた折、親鸞聖人の弟子となったと伝えられている。

創建の地は、現在の常陸那珂港付近にかつてあった青塚村である。この青塚村は元和3年(1617年)に天災により廃村になってしまい、同寺も新天地への移転を余儀なくされてしまうが、元禄2年(1689年)水戸藩主の命により馬渡に移転し現在に至る。

その後、幕末や第二次大戦での混乱を極める時代、二度の火事に遭いながらも歴代の住職とご門徒が一丸となり成等寺を護ってきた。



住職の傍ら華道教室も

成等寺の住職は初代から数えて25代目、平成21年から法務にあたり今年で12年目になる。華道の講師という顔も持ち合わせている住職は、成等寺で月二回の華道教室を開いている。元々花が好きだったという住職は、大学生のころから華道を習い始め、家元道場に5年以上も通ったという。始めてから15年が経つ華道教室は、今はコロナ禍の影響もあり5人程の生徒に教えている。初心者ができる生け花のコツを聞くと、「自分がきれいだと思います。それで良いんです。その感覚を伸ばしていくことです」とのこと。

終始穏やかに話す住職は、お寺の在り方について「ご門徒とのコミュニケーションを大事に、できるだけ寄り添うようにということをお話しています。そして、これからのお寺は人が集まる環境づくりが大切だと思います。駐車場にいつも車が止まっているような、そんなお寺が良いですね。」と語ってくれた。また、住職は「ご門徒と一緒に庭の清掃作業を定期的に行っている。住職とご門徒、一丸となって成等寺を盛り立てる姿は今も昔も変わらない。」

聞き手：行方市 豊安寺 板敷諒

茨城東組広報誌『響流』第十二号
二〇二一年九月発行
発行／浄土真宗本願寺派茨城東組実践運動
〒三一三〇一〇二三
常陸太田市久米町二〇一 正念寺内
編集／茨城東組 阿闍世の会